

連載42

## そして音楽の旅は続く スイング・ジャーナル編集長の言葉に ズドンとききました。

とんとん拍子で、わずか数か月で私はジャズボーカリストになっていました。ジャズ誌に掲載されたおかげでライブもコンサートも多くのお客様が足を運んでくださいましたが、ジャズの下積み時代が無い私は「恥ずかしい」という思いがいつも強く、自信がありませんでした。ただ、恵まれた環境で活動をスタートできたので唄う機会も多くなり、次第に落ち着いて取り組んでいける、ちよっぴり余裕も始まりました。

ところが自由で臨機応変にというのがとても難しいジャズ。そのアドリブ、今どこ演奏してるの?なにになにになに?と、ぐちゃぐちゃになったことも度々ありますが、失敗を繰り返しながら同じ曲を何度も歌いこんでいくと、やっとその1曲を自分なりに味わいながら唄う事ができるようになってきたのです。芸事でいう「やっと練れてきた」という感じです。スタンダードソングは星の数ほどあるので、それらを唄いこんでいくのは大変といえば大変ですが、楽しみもまた尽きません。それは今も同じで、新曲→失敗→何度も唄う→練れる、の繰り返しをやっています。この調子では一生、自信家にはなれないですね。

2005年ごろは私のジャズ活動が

盛んだったので、あっという間に時間が過ぎていきました。そして嬉しいことに、2枚目レコーディングのお話が舞い込みました。前回と同様にシャープ(株)と早稲田大学の共同で開発された高音質のレコーディングです。もちろんふたつ返事でお受けしました!若い頃に音楽だけで食べていくと志して上京したせいで貧乏性になってしまったのか、私はいただいたお仕事をお断りすることはほとんど無いんです。だって、ありがたいことじゃないですか!歌手なんて世の中にはいっぱいいるのに、声を掛けてくれるんですもん。スケジュールが入っていなければどんなお仕事でもGO!GO!です。

さて2枚目も、やはりピアニスト岩谷泰行さんをお願いをいたしました。アルバムタイトルは「IN A SENTIMENTAL MOOD」で、難曲と言われる曲でしたが、そんなことも分からない私でしたので楽しいばかりでした。1枚目のレコーディングのときはテナーサクソ川嶋哲郎さんでしたが、この2枚目ではアルトサクソ大友義雄さん、ギター直井隆雄さん、ドラムJimmie Smithさんなどの大御所たちに参加していただき、2006年12月発売。そしてジャズ評論家で『スイング・ジャーナル』編集長でもあった

ジャズボーカリスト  
星乃けい

official website  
<https://www.hoshinokei.com>

故・岩浪洋三先生の言葉にズドンとききました。なんと「日本の女性ジャズ歌手として最高の水準にある」と書いてくださったのです。大変、光栄なお言葉で嬉しかったです。と同時に「そうなりなさいよ!」とおっしゃっているようで…。自信のない私は、ときどきこの時の言葉を思い出して自分を叱咤激励しています。岩浪先生、ありがとうございました。



2022年12月、  
八百屋ジャズクリスマスコンサートにて

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。